

令和8年(2026年)9月14日

開館40周年記念展覧会
シリーズ THE DAIMYO

テーマ展「姫君の婚礼調度」を開催します



このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催しますのでお知らせします。

記

1 展覧会名称

開館40周年記念展覧会 シリーズ THE DAIMYO

テーマ展「姫君の婚礼調度」

2 会 期

令和8年(2026年)9月18日(金)～10月19日(月) ＊会期中無休

開館時間：

9月18日(金)～ 9月30日(水)…午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

10月 1日(木)～10月19日(月)…午前9時00分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

3 会 場

彦根城博物館 展示室1

4 展示の趣旨

江戸時代の生活は、さまざまな役割を果たす調度品で彩られていました。中でも、大名の調度は、棚や長櫃などの収納具、膳や碗などの飲食具、身なりを整える鏡や化粧具など、その種類は多岐に渡ります。これらは当時の工芸技法を駆使して制作され、大名家にふさわしい格式や美意識が追求されました。

大名の調度を代表するものの一つが、姫君の婚礼の際に調えられた婚礼調度です。江戸時代、婚礼は家同士の結びつきを強める大切な行事であり、大名家では家の威信をかけて支度を調え、大揃いの婚礼調度を用意しました。嫁ぎ先や実家の家紋を配し、統一的な意匠で一揃いのものとして作るのが一般的で、金蒔絵による優美な文様表現が特徴です。

当館には、3人の女性の婚礼調度が伝えられています。13代直弼に嫁いだ丹波亀山藩松平家6代信豪の娘昌子(1835～85)と高松藩松平家世子頼聡に嫁いだ直弼の二女弥千代(1846～1927)、14代直憲に嫁いだ有栖川宮熈仁親王の三女宜子(1851～95)の婚礼調度です。

昌子の調度は、碗や皿、それらをのせる膳などから成る膳碗類や駕籠など4件が伝わります。弥千代の調度は、駕籠や茶弁当など4件と、雛道具85件が伝来しています。雛道具は婚礼調度

のミニチュアで、実物さながらに精巧に作り込まれており、賑々しい婚礼支度の様子を今に伝えています。

宜子の調度は、飲食具や化粧具、碁盤、将棋盤など、雛道具ではない実物の調度としては最も多くまとまって22件が伝わっています。宜子の婚儀が執り行われたのは明治2年(1869)2月であり、明治時代に入ってからのことですが、種々の調度には江戸時代の余風がうかがえ、華麗な婚礼調度の魅力を余すところなく示しています。

本展では、井伊家伝来の婚礼調度が一堂に会します。姫君の婚礼を彩った華麗な調度の数々をご覧ください。

5 展 示 作 品

23件(別紙リストのとおり)

6 観 覧 料

一 般 700円(560円)

小・中学生 350円(280円) ()内は30名以上の団体割引料金

*常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

7 関 連 事 業

ギャラリートーク

日時：令和8年(2026年)9月26日(土) 午後2時～ *30分程度

会場：彦根城博物館 展示室1

講師：奥田晶子(当館学芸員)

その他：観覧料が必要

問い合わせ先

彦根市教育委員会事務局

彦根城博物館 学芸史料課

担当：奥 田 晶 子

電話 0749-22-6100

Mail museum@mx.hikone.ed.jp

テーマ展「姫君の婚礼調度」展示作品リスト

番号	名称	員数	時代	所蔵
1	嫁入之次第（大諸礼集のうち） 小池甚之丞貞成著	17冊のうち 1冊	元和9年(1623)	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
2	婚礼行列書付	1巻	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
3	嫁入道具之書	1冊	江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
13代直弼正室 昌子の婚礼調度				
4	黒漆塗八丁字紋駕籠	1棹	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
5	黒漆塗松菊散八丁字紋膳椀類	1式	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
6	黒漆塗八丁字紋長刀柄	1本	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
7	直弼様御婚礼御規式御献立帳	1冊	嘉永2年(1849)	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書*）
13代直弼息女 弥千代の婚礼調度				
8	黒漆塗松竹梅葵橘紋茶弁当	1揃	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
9	黒漆塗松竹梅葵橘紋挟箱	1対	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
10	雛道具（貝桶、三棚、駕籠、三味線、 胡弓、打掛、衣桁）	7種	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
11	井伊直弼書状 長野義言宛	1通	安政5年(1858)	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書*）
12	朱漆塗色々威腹巻具足	1領	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来資料）**
14代直憲正室 宜子の婚礼調度				
13	叢梨子地花菱唐草菊三ッ横菊紋化粧道具	1揃	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
14	叢梨子地花菱唐草菊三ッ横菊紋手拭掛	1対	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
15	叢梨子地花菱唐草菊三ッ横菊紋楊枝台	1基	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
16	紫地三ッ横菊紋幕	1張	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
17	黒漆塗松唐草文三ッ横菊紋鏡・鏡立・ 鏡箱	1揃	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
18	黒漆塗笹唐草三ッ横菊紋碁盤	1面	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
19	黒漆塗笹唐草三ッ横菊紋将棋盤	1面	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
20	黒漆塗笹唐草三ッ横菊紋双六盤	1面	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
21	叢梨子地三ッ横菊紋行器	1対	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
22	黒漆塗三ッ横菊紋刀掛	1基	江戸～明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
23	井伊直憲・禧宮婚礼式書	1冊	明治2年(1869)	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書*）

*彦根藩井伊家文書は一括で重要文化財指定

**朱漆塗色々威腹巻具足は市指定文化財

写真解説

1 黒漆塗八丁字紋駕籠 一棹 (作品リストNO. 4)

縦91.0cm 横130.7cm 高124.2cm

江戸時代後期

本館蔵(井伊家伝来資料)

13代直弼^{なおすけ}の正室昌子^{まさこ}の婚礼調度として調えられた駕籠^{かご}です。黒漆塗に昌子の実家である丹波亀山藩松平家^{たんばかめやま}の家紋・八丁字紋^{やっちょうじもん}が、唐草模様とともに金蒔絵^{きんまきえ}で表わされています。内側の天井と壁面には、金地に四季の花鳥が彩り豊かに描かれており、あたかも御殿の壁画を見るような趣があります。屋根の端には唐破風^{からはふ}という曲線状の装飾板^{かざり}があしらわれ、随所にきらびやかな飾金具^{かなぐ}を施し、動く御殿とも言えるような荘重なしつらえです。



2 黒漆塗松竹梅葵橘紋茶弁当 一揃 (作品リストNO. 8)

縦34.7cm 横34.5cm 高55.6cm

江戸時代後期

本館蔵(井伊家伝来資料)

井伊直弼^{なおすけ}の息女弥千代^{やちよ} (1846～1927) が高松藩松平家の世子^{よりとし}、頼聡に嫁いだ際に持参した婚礼調度の一つ。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵^{きんまきえ}で表わされています。茶弁当^{やがい}は、野外で茶を点てる野点^{のたい}の際などに用いられた携帯用の茶道具セットです。2基の屋台^{やたい}には、湯を沸かす風炉^{ふうろ}と釜^{かま}、水を入れる水入^{みずいれ}を収め、屋台の下部の抽斗^{ひきだし}に、茶碗^{ちやわん}や茶杓^{ちやしやく}など野点に必要な茶道具一式を収納しています。



3 井伊直弼書状 長野義言宛 一通 (作品リストNO. 11)

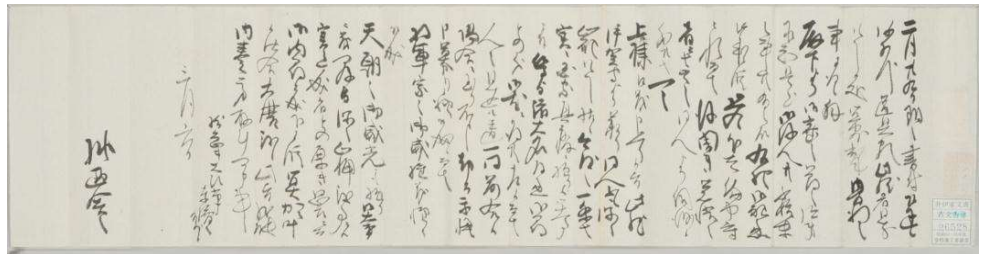
縦16.1cm 横64.0cm

重要文化財 安政5年(1858)3月6日

本館蔵(彦根藩井伊家文書)

井伊家13代直弼^{なおすけ}から腹心^{はらこころ}の家臣、長野義言^{ながの よしとき}に宛てた書状。義言は弥千代の婚礼準備のため、安政5年(1858)2月から京につかわされていました。本書状では、直弼のもとに義言が手配した弥千代の婚礼道具

が到着した旨が記されており、その出来映えを褒め、ねぎらう言葉が記されています。弥千代の婚儀が執り行われたのは翌月21日のことでした。



4 叢梨子地花菱唐草菊三ッ横菊紋化粧道具 一揃 (作品リストN0. 13)

縦26.8cm 横21.1cm 高21.5cm

江戸～明治時代

本館蔵(井伊家伝来資料)

14代直憲の正室宜子の婚礼調度として調えられた、化粧道具一式とこれらを入れる手箱。箱内には、眉まゆ作りつくりふでふで、三櫛みつぐし・壺櫛つぼくし・髪撫かみなで・丸鏡・鏡箱・白粉合子おしろいごうす・白粉解おしろいとき・毛抜けぬき・杓しゃくが納められています。箱そのものはもちろんのこと、化粧道具の一つ一つまで、宜子の実家である有栖川宮家の家紋の三ッ横菊紋と菊紋が、花菱・繫と唐草の模様と共に金蒔絵で表されています。地を埋め尽くすようにちりばめられた金粉と、リズムカルに配された模様が賑やかに響き合い、華やかな印象を与えます。



5 黒漆塗笹唐草三ッ横菊紋将棋盤 1面 (作品リストN0. 19)

縦36.6cm 横33.7cm 高21.7cm

江戸～明治時代

本館蔵(井伊家伝来資料)

14代直憲の正室宜子の婚礼調度の将棋盤。将棋盤は、碁盤ごばんと双六盤とともに「三面」と呼ばれます。三面は、女性の教養を育むにふさわしい遊技具とされ、大名の婚礼調度の定番になりました。この将棋盤は、黒漆の地に、三ッ横菊紋と唐草の模様が金蒔絵であしらわれています。



参 考 資 料

井伊家^{なおすけ}13代直弼^{まさこ}の正室 昌子(1835～85)

昌子^{かめやまはん}は、丹波亀山藩松平家^{のぶひで}6代信豪の娘です。直弼との婚約が決まったのは、直弼が世継ぎとなった弘化3年(1846)のことでした。当時、昌子は数え年で12歳、直弼とは20歳の年齢差でした。実際に婚儀が行われたのは婚約の6年後の嘉永5年(1852)8月19日。この時、昌子は18歳になっていました。井伊直弼やその一族、家臣との茶会の記録に、わずかながら昌子の名も見え、交流の様子をうかがい知ることができます。

井伊家^{なおすけ}13代直弼^{やちよ}の二女 弥千代(1846～1927)

弥千代は、弘化3年(1846年)正月16日、井伊直弼の二女として生まれ、安政5年(1858)4月、13歳で高松藩松平家^{よりとし}頼聡のもとに輿入れしました。しかし、安政7年3月、桜田門外の変で直弼が世を去り、井伊家が政治的な苦境に^{おちい}陥ると、その難が婚家に及ぶことを恐れ、文久3年(1863)、頼聡と離縁しました。この時、婚礼道具もともに井伊家に帰り、井伊家のもとに残されたのです。その後、世情が落ち着いた明治5年(1872)、弥千代は再び頼聡に嫁ぎ、松平千代子^{まつだいらちよこ}として82歳の天寿を全うしました。

松平千代子肖像 大正15年撮影(当館蔵)▶



井伊家^{なおのり}14代直憲^{よしこ}の正室 宜子(1851～95)

宜子^{ありす}は、有栖川^{がわのみや}宮家8代^{たかひと}熈仁親王の三女であり、兄である9代熈仁親王^{ぼしん}は、戊辰戦争では旧幕府軍を追討する明治新政府軍の東征大総督を務め、明治時代以降は元老院議長を務めるなど新政府において重きをなした人物です。

直憲と宜子の縁組の約束が成ったのは、明治元年(1868)9月。井伊家が新政府軍の一員として戊辰戦争に参じ、東北をはじめ各地で旧幕府軍との戦いを繰り広げていた最中のことでした。翌年2月23日に執り行われた2人の婚礼は、井伊家が新政府側の陣営についたことを象徴するものだったと言えます。



▲ 宜子肖像(個人蔵)